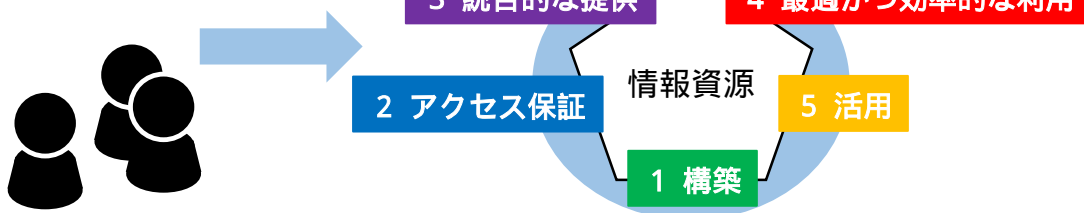


「国立国会図書館利用者サービス基本計画2016」の概要

つながる・つなげる・いかされるサービス

平成28年度～32年度に、東京本館、関西館及び国際子ども図書館の3施設が共通して取り組むべき利用者サービスの提供方針を示すものです。

利用者サービスの方向性



1 当館独自の情報資源の構築

当館所蔵資料とそれ以外の情報資源、印刷資料とデジタル化資料等、情報資源の複合的な構築を図ります。当館独自の情報資源の構築、レファレンスサービスや情報発信型サービスにより、当館の独自性を高めます。

2 情報資源へのアクセス保証

我が国唯一の国立図書館として、国民共有の文化的資産である所蔵資料へのアクセスを保証します。上記の目的を達成するため、資料のデジタル化、遠隔利用サービスの充実、館内利用サービスの充実と施設間の連携、図書館ネットワークの活用、情報アクセシビリティの確保のための各施策を推進します。

3 多様な情報資源及びサービスの統合的な提供

当館が提供する多様な情報資源を統合的に提供します。利用者が適切なサービスを選択し、求める情報資源に容易にアクセスできるよう、各種サービスの連携を図ります。

4 情報資源の最適かつ効率的な利用の実現

遠隔利用サービス、館内利用サービス、国内外の図書館等を経由したサービスの利用環境を向上させ、利用者が最適なサービスポイントで情報資源を利用できるようにします。当館所蔵資料に加え、他機関が所蔵・管理する資料への案内も併せて行います。

5 他機関との連携による情報資源の活用の促進

各図書館と連携し、当館が有する情報資源と専門的知識を活用し、図書館サービスを支援します。当館の情報資源の一層の活用を図り、幅広い利用者ニーズに応えるため、図書館以外の諸機関との連携協力関係を推進します。

実施するサービスの概要

1 統合的オンラインサービスの実現を通じた利便性の向上

国立国会図書館サーチ、NDL-OPAC、国立国会図書館デジタルコレクション、リサーチ・ナビ等の関係を整理し、これらを統合的に利用できる、利便性の高い新たなオンラインサービスを提供します。求める情報に効率よく到達できるユーザインタフェースを実現し、またアクセシビリティを確保します。他機関が提供する情報資源へも誘導します。

2 資料提供サービス、レファレンスサービスの拡大・深化

図書館送信サービスの利活用を促進します。遠隔複写サービスの利便性及び認知度を向上させます。東京本館、関西館、国際子ども図書館の統一的な手続による資料の予約・取寄せサービスを目指します。利用手続を改善し、利用環境の整備を行います。障害者サービスを充実します。レファレンス情報の発信に努め、レファレンスサービスを改善します。利用者ニーズの継続的な把握と分析を行い、サービスの改善に役立てます。

3 他機関との連携、展示・イベントによる情報アクセスの拡充

類縁機関、近隣機関との連携を強化します。展示活動を積極的に行います。当館の所蔵資料や役割への理解を深めてもらうため、施設を活用したイベントや見学プログラムを行います。ホームページやソーシャルメディアを活用した広報や利用案内を行います。